

クオリティ企業をめざして

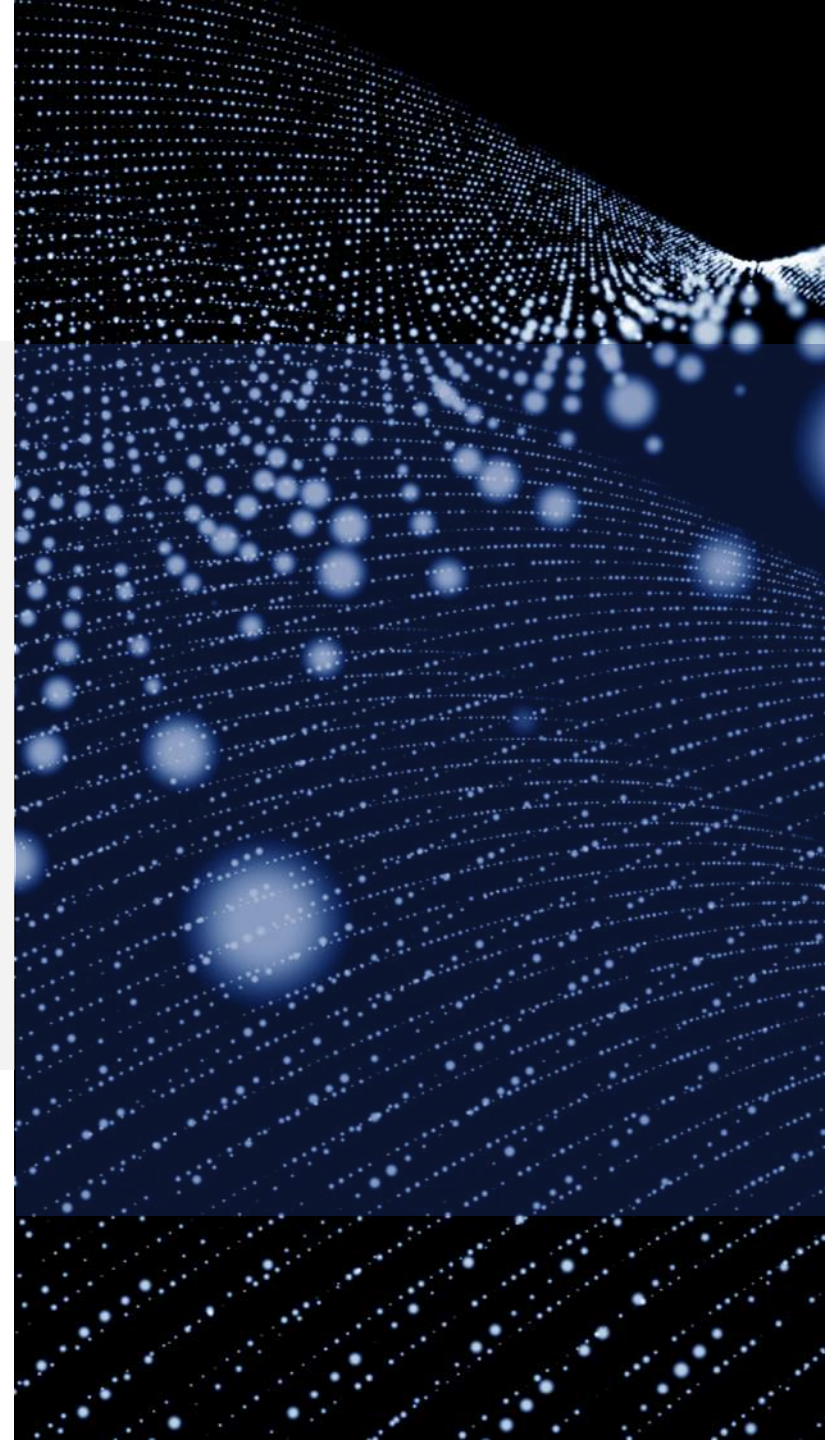
2026年12月期第1四半期 決算説明資料

湖北工業はアルミ電解コンデンサ用リード端子と
海底光通信用部品のリーディングカンパニーです

湖北工業株式会社
2026年5月13日

目次

I . 2026年12月期1Q 決算概況	P. 2
II . セグメント別の状況	P. 10
III . 参考情報	P. 25



I. 2026年12月期1Q 決算概況

2026年12月期(1Q)のハイライト

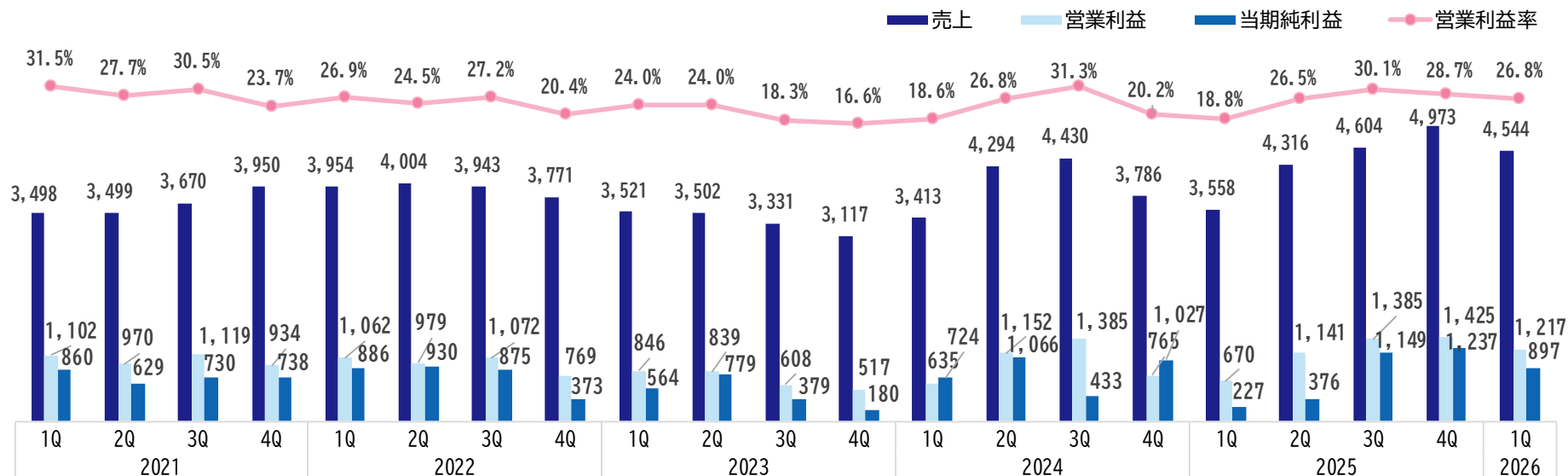
<業績概要>

- 1Qの業績は前年同期比で売上が+27.7% (+986百万円)、営業利益は+81.5% (+546百万円)の増収増益となった
- 光部品・デバイス事業が前四半期比で一部顧客の一時的な在庫調整を受けたが、リード端子事業は売上改善が継続、また前年比では主力2事業ともに売上大幅増加となった
- 為替差益の発生もあり、当期純利益は前年同期比+294.0% (+670百万円)の大幅増益となった

<事業環境>

- 海底ケーブル市場は、順調なプロジェクト投資を背景に光部品・デバイスの好調な受注が継続
- 自動車関連市場では、欧州及び中国市場で回復遅れがあったが、電装化の進展に伴うプラス要因が見られた
- 情報通信インフラ市場では、AIサーバー・データセンタ市場が好調、売上に対してプラスの影響

売上高、営業利益、当期純利益、営業利益率 (百万円、%)



損益計算書(1Q)の概要

前年同期比大幅増収増益を達成。両事業部門で売上・利益ともに大きく改善

(単位：百万円)

<前年同期比較>

	2025年12期	2026年12期		
	1Q (1月-3月)	1Q (1月-3月)	対前年同期 増減	前年同期比
売上高	3,558	4,544	+986	+27.7%
リード端子事業	1,978	2,516	+538	+27.2%
光部品・デバイス事業	1,580	2,028	+447	+28.3%
営業利益	670	1,217	+546	+81.5%
営業利益率	18.8%	26.8%	+7.9pt	—
リード端子事業	114	209	+94	+82.4%
光部品・デバイス事業	555	1,008	+452	+81.4%
経常利益	301	1,327	+1,026	+340.5%
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	227	897	+670	+294.0%
為替レート (期中平均)	152.56円/\$	156.96円/\$		

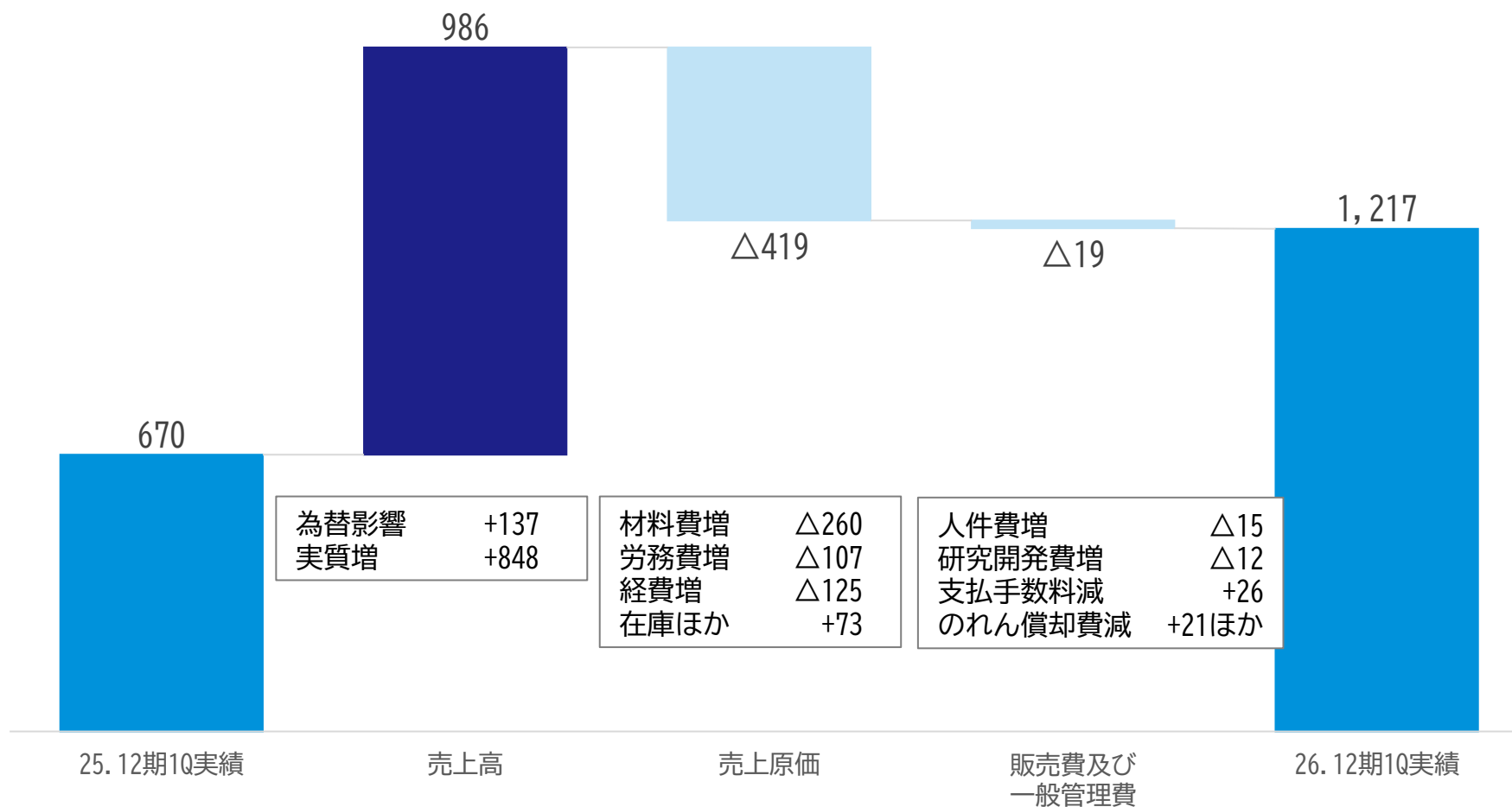
<前四半期比較>

	2025年12期	2026年12期		
	4Q (10月-12月)	1Q (1月-3月)	対前四半期 増減	直前四半期比
売上高	4,973	4,544	△428	△8.6%
リード端子事業	2,442	2,516	73	+3.0%
光部品・デバイス事業	2,531	2,028	△502	△19.9%
営業利益	1,425	1,217	△208	△14.6%
営業利益率	28.7%	26.8%	△1.9pt	—
リード端子事業	210	209	△1	△0.8%
光部品・デバイス事業	1,215	1,008	△206	△17.0%
経常利益	1,720	1,327	△392	△22.8%
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	1,237	897	△339	△27.5%
為替レート (期中平均)	154.09円/\$	156.96円/\$		

営業利益(1Q)の増減要因 (前年同期比)

売上の増加がコストアップを吸収し、大幅増益

(単位：百万円)

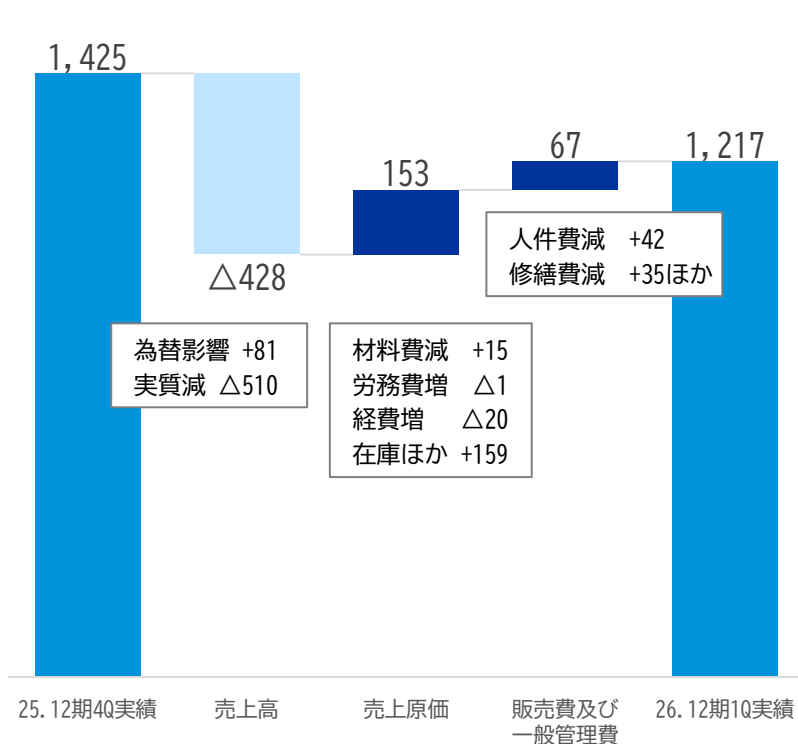


営業利益(1Q)の増減要因

前四半期比

(単位：百万円)

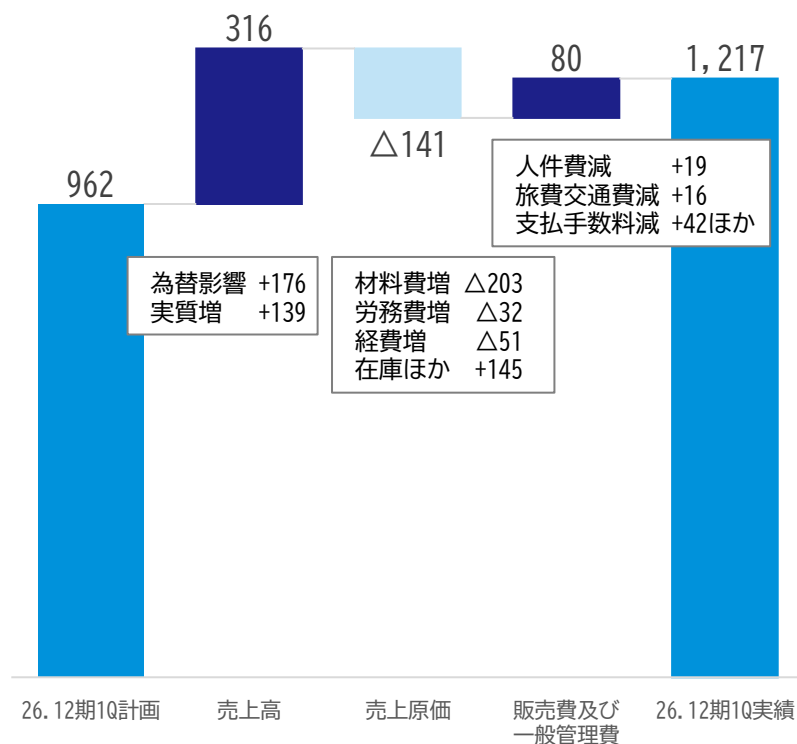
光部品・デバイス事業の一部顧客の在庫調整による一時的な売上減により、若干の営業減益



計画比

(単位：百万円)

売上増加と販管費減により営業利益は計画比増加



貸借対照表(1Q)

(単位：百万円)

貸借対照表	25年12月期末	26年12月期 1Q末	増減額	主な増減内容
流動資産	17,027	17,491	+463	現金及び預金 +1,299、売掛金 △646、電子記録債権 △719、製品 +134、原材料及び貯蔵品 +271ほか
固定資産	11,291	11,481	+189	投資有価証券 +48、建物及び構築物（純額）+39、機械装置及び運搬具（純額）+29、リース資産 +27ほか
資産合計	28,319	28,972	+653	
流動負債	2,584	2,902	+318	買掛金 +254、未払法人税等 △130、賞与引当金 +127ほか
固定負債	2,293	2,336	+43	リース債務 +34ほか
負債合計	4,877	5,239	+361	
純資産合計	23,441	23,733	+291	為替換算調整勘定 +229ほか
負債・純資産合計	28,319	28,972	+653	

2026年12月期業績の見通し（現時点の進捗状況）

主力2事業ともに1Qは、期初の計画を若干上回る進捗となった

（単位：百万円）

<為替感応度> 売上高80百万円/円 営業利益30百万円/円	2025年12月期	2026年12月期（計画）					
	実績	1Q（1月-3月） 実績	上期予想	下期予想	通期予想	対前年増減	前年比
売上高	17,454	4,544	9,275	10,338	19,613	+2,159	+12.4%
リード端子事業	8,802	2,516	4,911	5,445	10,356	+1,554	+17.7%
光部品・デバイス事業	8,651	2,028	4,364	4,892	9,257	+605	+7.0%
営業利益	4,624	1,217	2,466	2,938	5,404	+780	+16.9%
営業利益率	26.5%	26.8%	26.6%	28.4%	27.6%	+1.1pt	-
リード端子事業	766	209	469	655	1,125	+358	+46.8%
光部品・デバイス事業	3,857	1,008	1,996	2,282	4,279	+421	+10.9%
経常利益	4,547	1,327	2,287	2,960	5,247	+700	+15.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,992	897	1,571	1,964	3,536	+543	+18.2%
1株当たり当期純利益（円）	114.73	34.66	60.67	75.84	136.51		
為替レート（期中平均）	149.62円/\$	156.96円/\$	150.00円/\$	150.00円/\$	150.00円/\$		

● 現時点の状況

- ・ リード端子事業：売上・利益ともに改善傾向続くが、中東情勢の影響が懸念材料
- ・ 光部品・デバイス事業：1Qに生じた一時的な在庫調整は2Qに向けて解消、売上が大きく回復の見通し

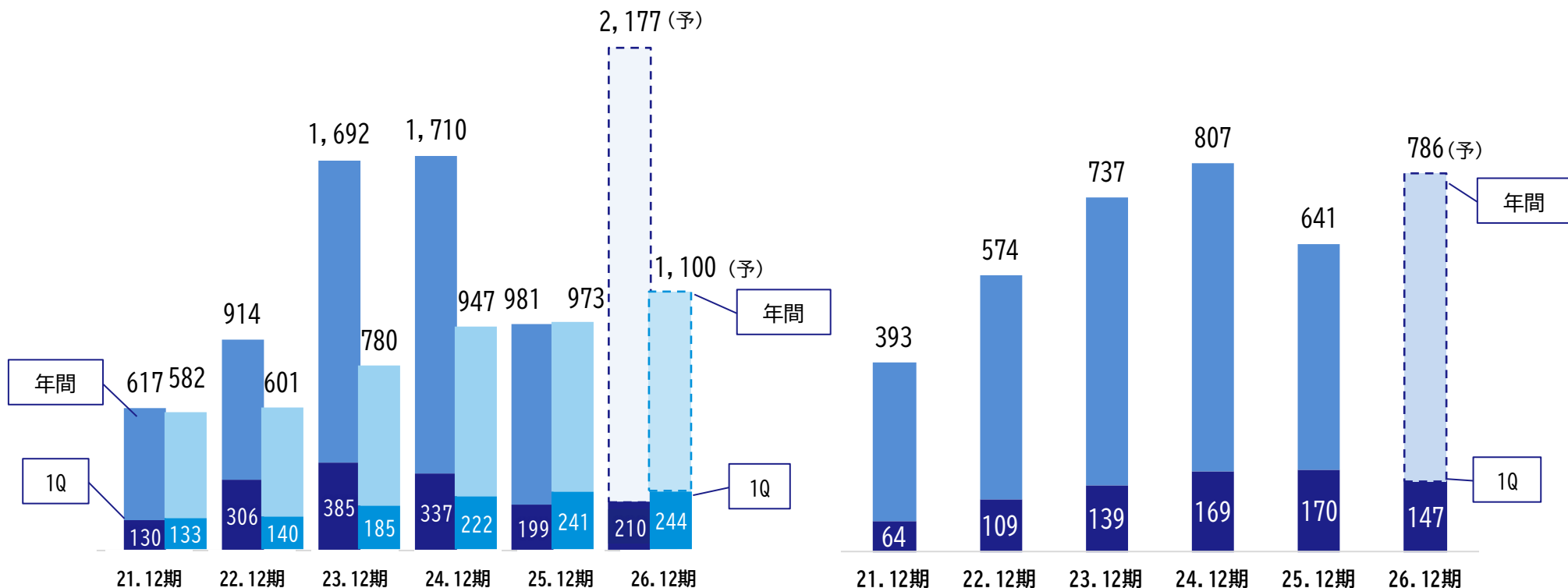
※ <為替感応度> は、1米ドルに対して1円の変動が1年間続いた場合の試算値

設備投資・減価償却・研究開発(1Q)

リード端子レーザー溶接機、光部品・デバイスの脱炭素向けの投資ほか若干の時期ずれが発生
26年の投資計画に、28年完成予定の米原事業所建設費用の一部（6億円弱）を含む

設備投資額・減価償却費（百万円）

研究開発費（百万円）



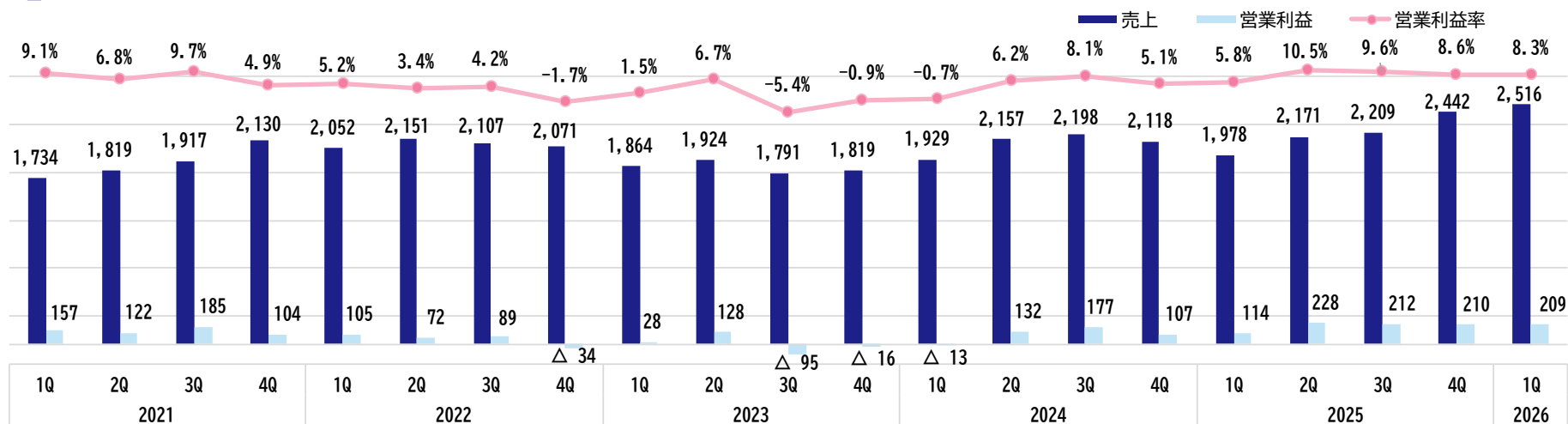
Ⅱ. セグメント別の状況

セグメント別業績（1Q） - リード端子

- ・売上は、車載向けハイブリッドコンデンサの採用拡大や、AIサーバー/データセンタ市場の活況を背景に回復
- ・利益面では、材料費高騰を生産効率改善により吸収し、増益

	<前年同期比較>				<前四半期比較>				(単位：百万円)
	2025年12月期 1Q (1月-3月)	2026年12月期 1Q (1月-3月)	対前年同期 増減	前年同期比	2025年12月期 4Q (10月-12月)	2026年12月期 1Q (1月-3月)	対前四半期 増減	直前四半期比	
売上高	1,978	2,516	+538	+27.2%	2,442	2,516	+73	+3.0%	
営業利益	114	209	+94	+82.4%	210	209	△1	△0.8%	
営業利益率	+5.8%	8.3%	+2.5pt	—	8.6%	8.3%	△0.3pt	—	

売上高、営業利益、営業利益率（百万円、%）



2026年12月期当初想定vs現在の状況比較 - リード端子

当社の経営環境

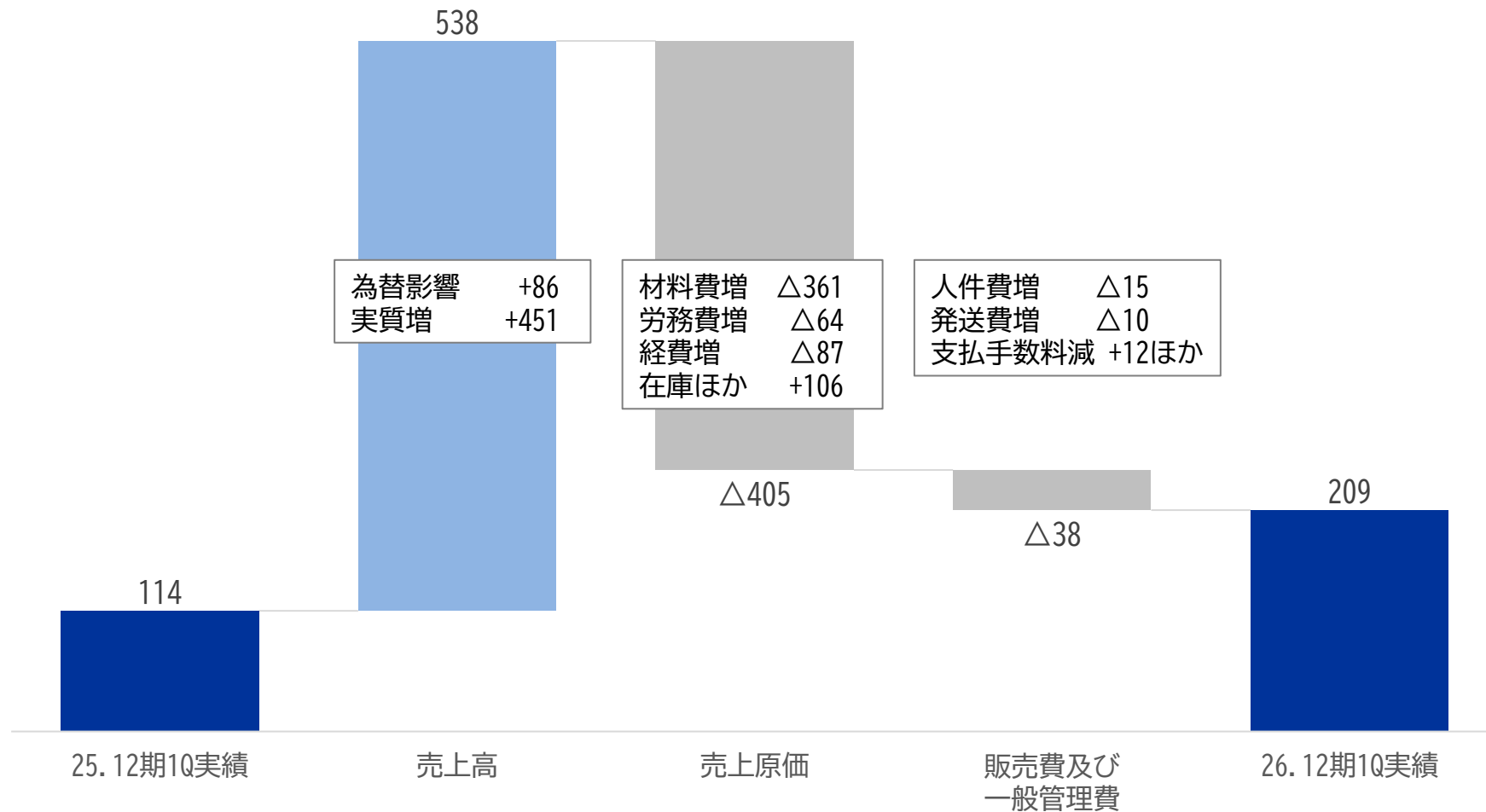
	26年12月期当初（2月時点）コメント	2026/12期1Qの状況	2026/12期2Q以降の見通し
(1) 生産	<ul style="list-style-type: none"> ● 本社工場で自動化・省人化を推進 ● 2026年年度OEE改善目標 87% ・調整不良削減 ・海外工場間での水平展開強化 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 本社工場での自動化・省人化に加えて歩留まり向上、さらに高付加価値製品の受注拡大に伴い稼働率が上昇傾向 ➢ 1Q OEE 82.9%（連結）、海外工場間の支援活動を強化し、中国2工場では86%を達成 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 高付加価値製品の生産能力増強 ➢ 年間目標達成に向けて改善活動を継続
(2) 売上	<ul style="list-style-type: none"> ● グローバルで受注拡大を進める ● 高付加価値製品の量産受注を強化 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 海外市場での採用は順調に進捗。材料費高騰により受注増加は若干緩やか ➢ 車載及びAIサーバー用ハイブリッド・導電性高分子コンデンサ向けを中心に受注が大幅に増加 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 2Q以降に向けての受注は増加傾向 ➢ 車載向けの伸びに加えてAIサーバー向けの急成長を見込む
(3) 技術	<ul style="list-style-type: none"> ● 2026年2月、顧客仕様ニッケルメッキタイプのサンプル出荷開始 ● サンプルアイテム拡大と量産体制構築 ● 車載・生成AI向けに重点を置いた樹脂コーティング、特殊化成品の売上拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 本社工場にて開発課題をリストアップして継続取組中 ➢ 車載・AIサーバー向けを中心にサンプル供給増加 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 顧客使用ニッケルメッキタイプのサンプル出荷は6月にずれ込み ➢ AIサーバー、データセンタ用ハイブリッドコンデンサ、固体コンデンサ向けを中心として高付加価値商品の売上が順調に増加の見通し

セグメント別

営業利益(1Q)の増減要因 (前年同期比) - リード端子

売上の回復と生産効率改善による固定費比率低下により材料コストの先行負担を吸収し、増益

(単位：百万円)

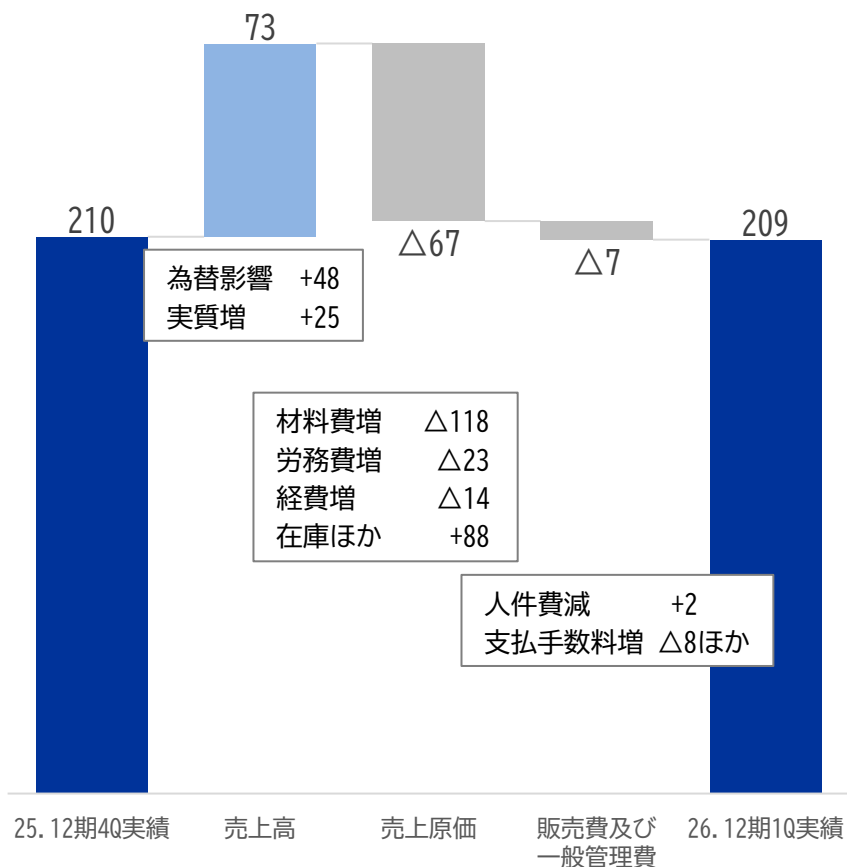


営業利益(1Q)の増減要因

前四半期比

(単位：百万円)

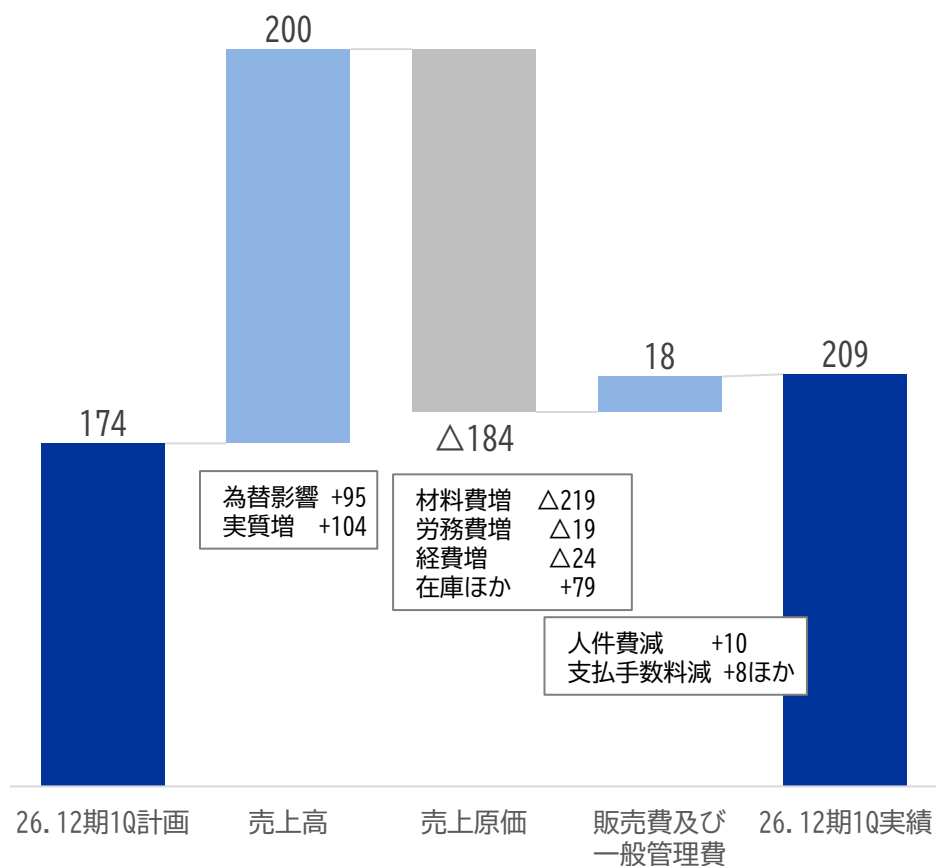
売上が増加したが、アルミなどの材料価格上昇により利益は横ばいとなった



計画比

(単位：百万円)

売上増加が材料コストのアップを吸収し増益



リード端子事業の見通し

AIサーバー向けの売上急拡大と材料価格上昇の価格転嫁、生産効率・プロダクトミクス改善により、売上・利益ともに増加傾向が続く見通し

セグメント業績

(単位：百万円)

	2025年12月期	2026年12月期 (通期)					
	実績	1Q (1月-3月) 実績	上期予想	下期予想	通期予想	対前年増減	前年比
売上高	8,802	2,516	4,911	5,445	10,356	+1,554	+17.7%
営業利益	766	209	469	655	1,125	+358	+46.8%
営業利益率	8.7%	8.3%	9.6%	12.0%	10.9%	+2.2pt	—

2026年12月期1Qの状況及び現時点での見通し

- 2026年12月期1Qは、期初見通しを上回る進捗となったが、材料価格上昇の影響を受けた
- 1Qは、欧州・中国自動車市場の回復遅れが見られた一方で、AIサーバー・データセンタ向けは拡大した
- 2Qは、欧州自動車市場向けが改善の兆候、AIサーバー・データセンタ向けも拡大が続く見通し
- 中東情勢の影響など、市場見通しは若干不透明。収益面では、価格転嫁もあり改善の見通し

市場開拓による事業規模の拡大

車載関連市場向け及びAIサーバー向け高付加価値製品の売上増加

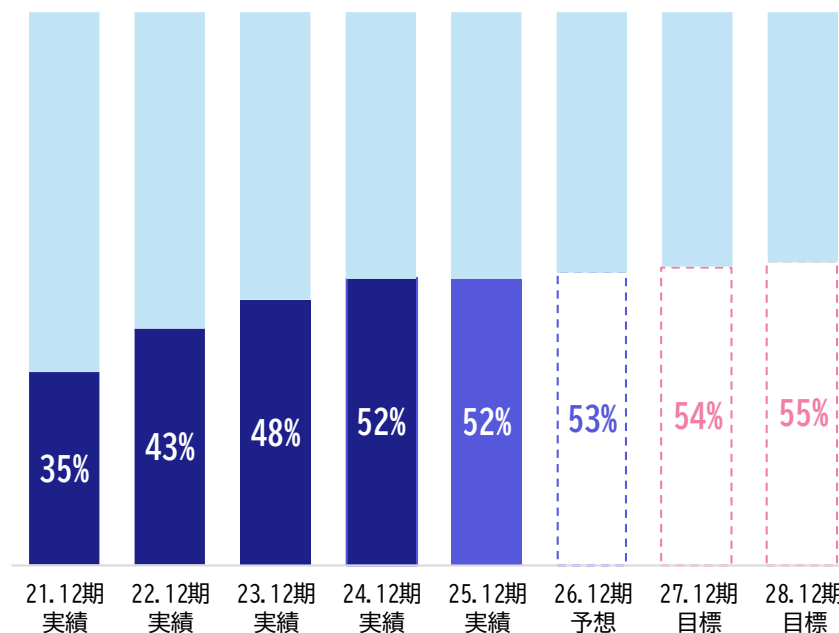
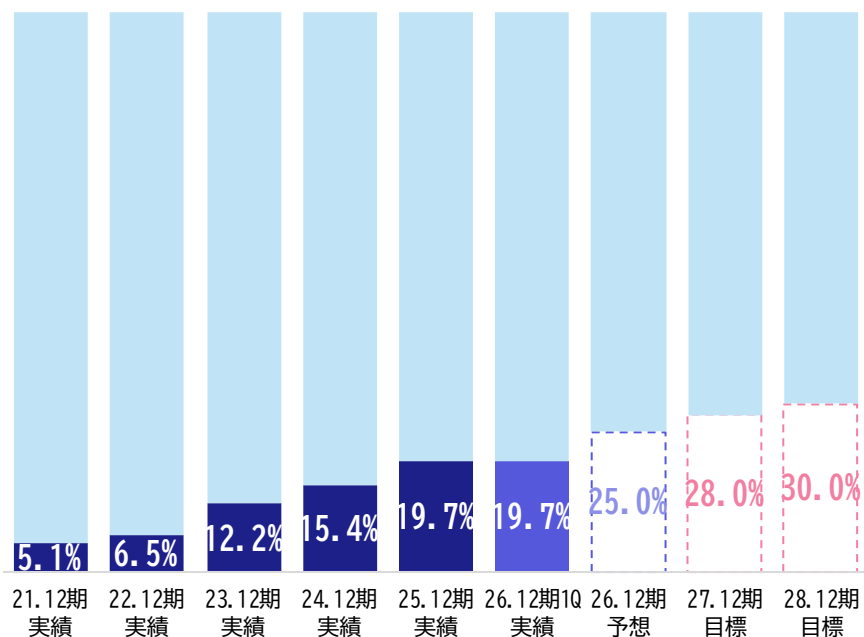
高付加価値製品の売上比率



- ・バリレス及び、漏れ電流対策に向けた各アイテムの採用増加
- ・レーザー溶接技術品（ニッケルメッキ品他）の開発強化

自動車市場向け売上比率（推定値）

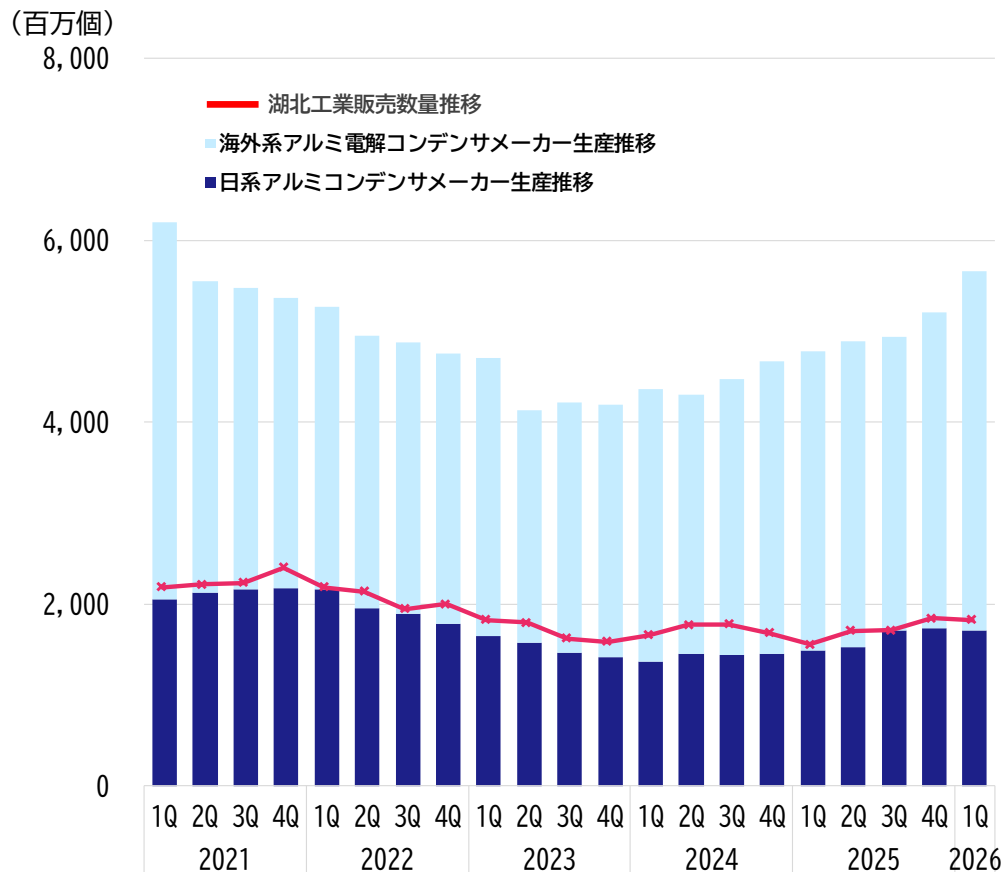
- ・車載市場（駆動系）向けグローバルマーケットシェア95%維持
- ・海外車載市場、AIサーバー・データセンタ市場での拡販を進める



事業環境

アルミ電解コンデンサは、AIサーバー市場の急成長が牽引、回復局面が続く

小型アルミ電解コンデンサのグローバルマーケットと当社の販売数量推移



※リード端子はコンデンサ1個あたり2個仕様の為、コンデンサ数量に換算して表示

※アルミ電解コンデンサ生産数量は各四半期ごとの最終月の実績、リード端子販売数量は四半期における月平均（当社推定）

市場動向・営業施策

<自動車関連市場>

- 1Qは、欧州及び中国市場は回復遅れ、2Qに入り欧州向けがようやく回復の兆し
- 中東情勢による原油価格の変動もあり全体としては不透明な状況
- ハイブリッドコンデンサ、固体コンデンサなど高性能コンデンサの生産数量が増加。グローバル市場で高付加価値製品の採用が増加

< AIサーバー・データセンタ市場>

- 日系コンデンサメーカー向けに加え、海外顧客においても受注拡大傾向
- ハイブリッドコンデンサ、固体コンデンサ新製品向けリード端子の受注が大きく増加

<民生機器市場ほか>

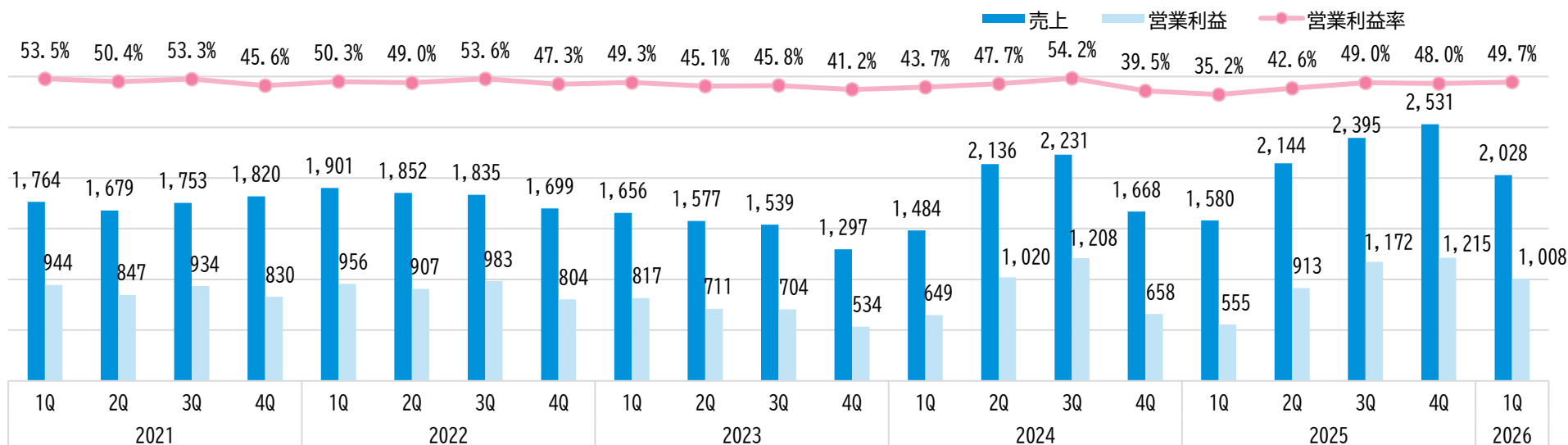
- 原材料価格上昇の影響、中国での景気停滞等により厳しい状況が続く

セグメント別業績(1Q) - 光部品・デバイス

一部顧客の一時的な在庫調整により前四半期比では売上が減少したが、一過性要因を除くと順調

	<前年同期比較>				<前四半期比較>				(単位：百万円)
	2025年12月期 1Q (1月-3月)	2026年12月期 1Q (1月-3月)	対前年同期 増減	前年同期比	2025年12月期 4Q (10月-12月)	2026年12月期 1Q (1月-3月)	対前四半期 増減	直前四半期比	
売上高	1,580	2,028	+447	+28.3%	2,531	2,028	△502	△19.9%	
営業利益	555	1,008	+452	+81.4%	1,215	1,008	△206	△16.9%	
営業利益率	35.2%	49.7%	+14.7pt	—	48.0%	49.7%	+1.7pt	—	

売上高、営業利益、営業利益率 (百万円、%)



2026年12月期当初想定vs現在の状況比較 - 光部品・デバイス

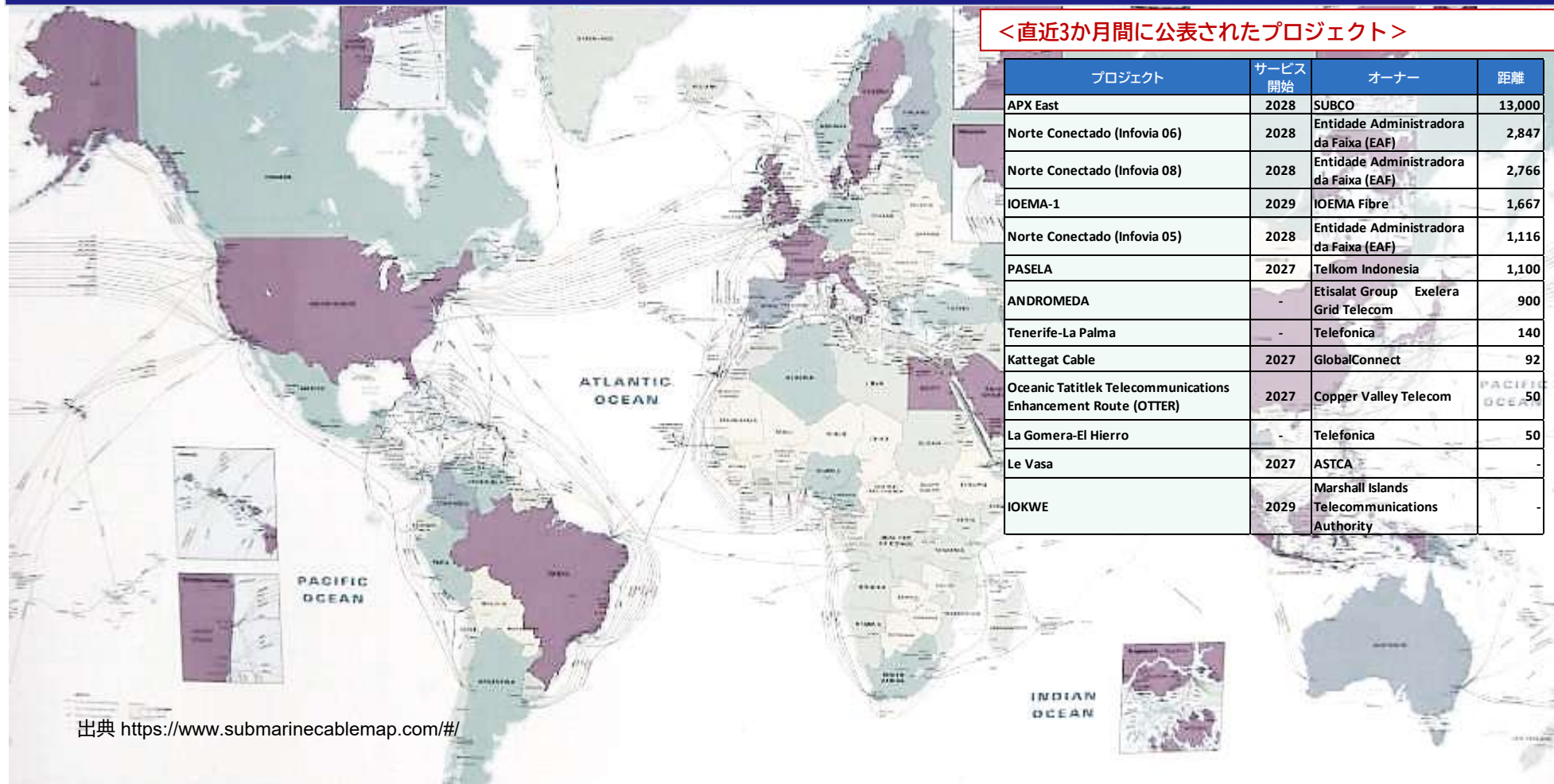
当社の経営環境

	26年12月期当初（2月時点）コメント	2026/12期1Qの状況	2026/12期2Q以降の見通し
(1)製品開発	<ul style="list-style-type: none"> ● 複合品・モジュール品の評価進行、2026年から量産開始予定 ● 小型アイソレータの販売比率上昇、多芯化に向けて採用拡大 ● PLZTを用いた高速光スイッチの開発進行 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 複合品、モジュール品の引き合いが増加 ➢ 次世代小型モジュールの開発をスタート ➢ マルチコアファイバ向けデバイスの開発進行 ➢ 小型アイソレータ比率80% 従来型は20%まで低下 ➢ PLZT薄型単結晶ウェハを販売開始 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 複合品の販売を2Qから開始、モジュール品は4Qまでライフテスト、その後量産移行 ➢ マルチコアファイバ向けFIFOデバイス試作ライン立ち上げ、2027年量産に向けて開発加速 ➢ 小型アイソレータが主流となるが、顧客事由により従来型もある程度残る見通し ➢ 米国の前工程を9月に本社工場へ移設予定
(2)生産性他	<ul style="list-style-type: none"> ● 半自動装置を活用し生産効率改善、生産能力拡大 ● データセンタ向け光部品の生産能力増強、売上増加 ● 高純度石英ガラス（SSG®）製品の売上増加 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 当面の受注増に対応しスリランカ工場の人員を増員 ➢ さらなる増産対応として半自動装置増設に向けて準備 ➢ 光部品前工程の歩留まり改善による能力増強進む ➢ 半導体製造装置、特殊光ファイバプリフォーム向けに引続き引き合い増加 ➢ 大型焼結炉増設、供給力強化中 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 半自動装置3号機を2027年立ち上げ、生産能力をさらに増強 ➢ 光部品前工程の能力増強投資を進め、2027年はさらなる売上増加を見込む ➢ 5月開催のフォトニクス展ほか、高純度石英ガラス（SSG®）製品の拡販を継続

海底ケーブルネットワークの長距離化、大容量化が進展

* 図中の各線が海底ケーブル

長距離海底ケーブルシステムの全体図



出典 <https://www.submarinecablemap.com/#/>

※出所) TeleGeography 「Submarine Cable Map」

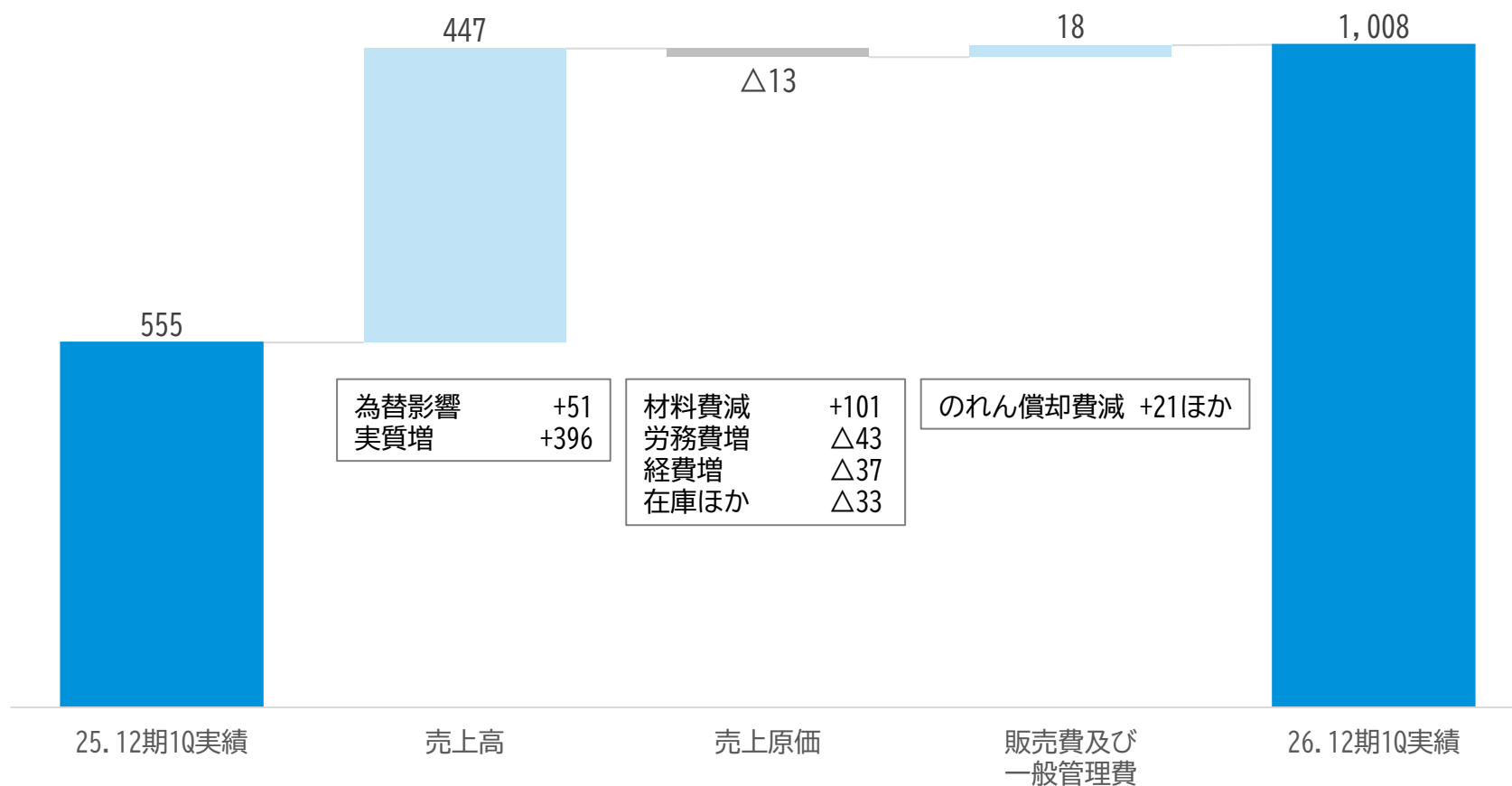
※プロジェクトの更新情報は公表データから推定したものです。

セグメント別

営業利益(1Q)の増減要因（前年同期比） - 光部品・デバイス

一部顧客で一部製品の在庫調整があり、プロダクトミクスが一時的に改善、利益大幅増

(単位：百万円)

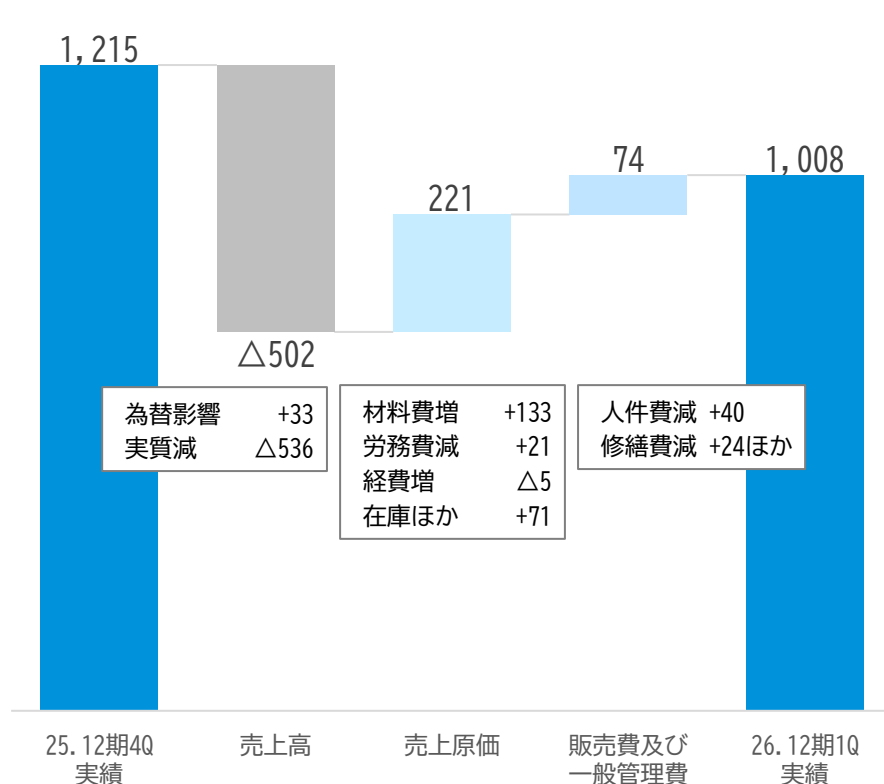


営業利益(1Q) の増減要因

前四半期比

(単位：百万円)

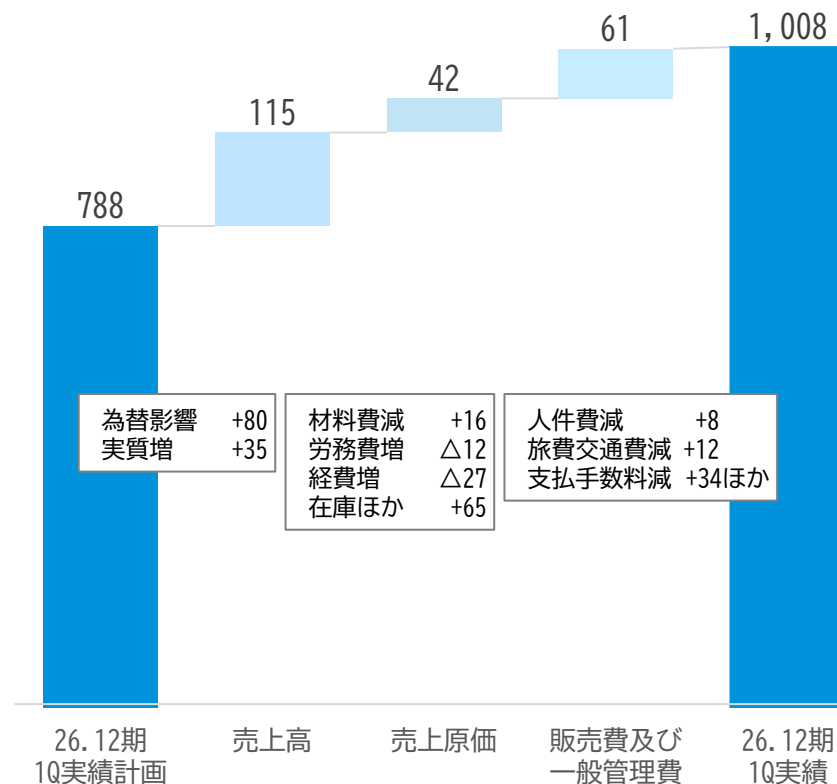
一過性要因の売上減少を一時的なプロダクトミクス改善により吸収して小幅の減益



計画比

(単位：百万円)

売上・利益とも計画比プラスで着地



光部品・デバイス事業の見通し

一過性の在庫調整は終了。2Qの売上は改善に向かう見通し

セグメント業績

(単位：百万円)

	2025年12月期	2026年12月期 (通期)					対前年増減	前年比
	実績	1Q (1月-3月) 実績	上期予想	下期予想	通期予想			
売上高	8,651	2,028	4,364	4,892	9,257	+605	+7.0%	
営業利益	3,857	1,008	1,996	2,282	4,279	+421	+10.9%	
営業利益率	44.6%	49.7%	45.7%	46.7%	46.2%	+1.6pt	—	

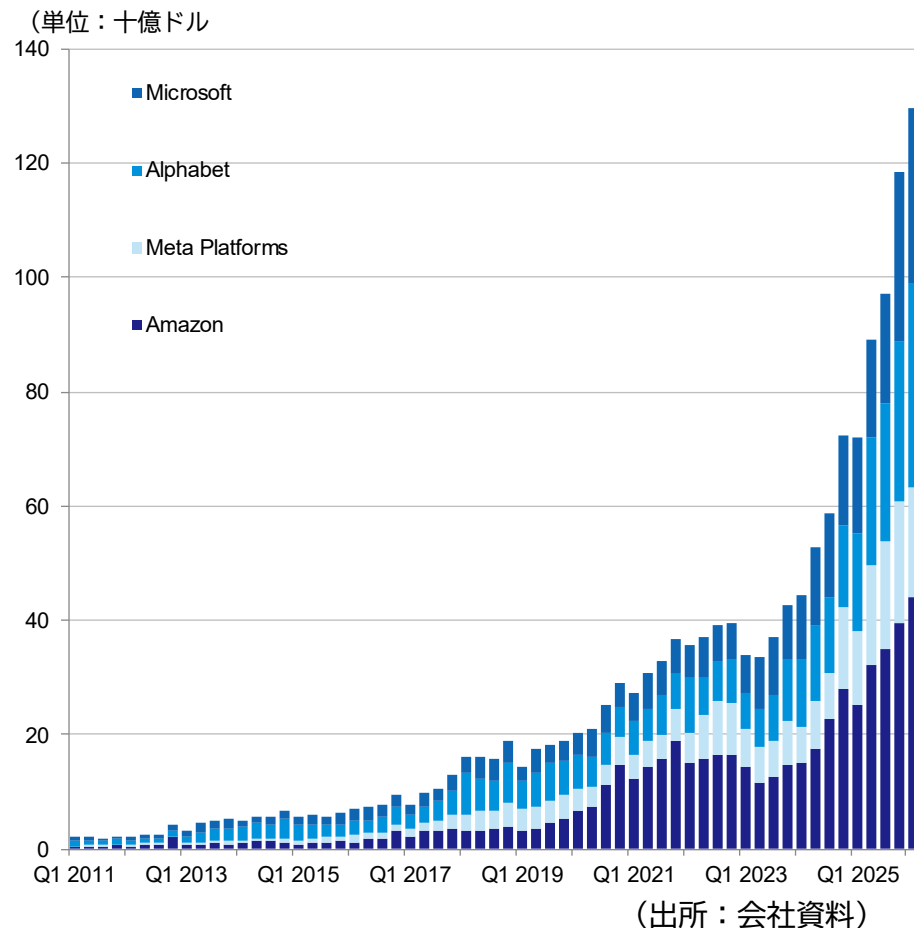
2026年12月期1Qの状況及び現時点での見通し

- 2Q以降は、順調な売上が続く見通し
- 海底ケーブルプロジェクトへの投資は引き続き好調
- ファラデー回転子は引き続き生産能力を強化、売上が伸びる見通し

事業環境

AIサーバー・データセンタ向けに活発な投資が継続、海底ケーブルの大容量化に向けた進む

米国クラウド事業者の設備投資



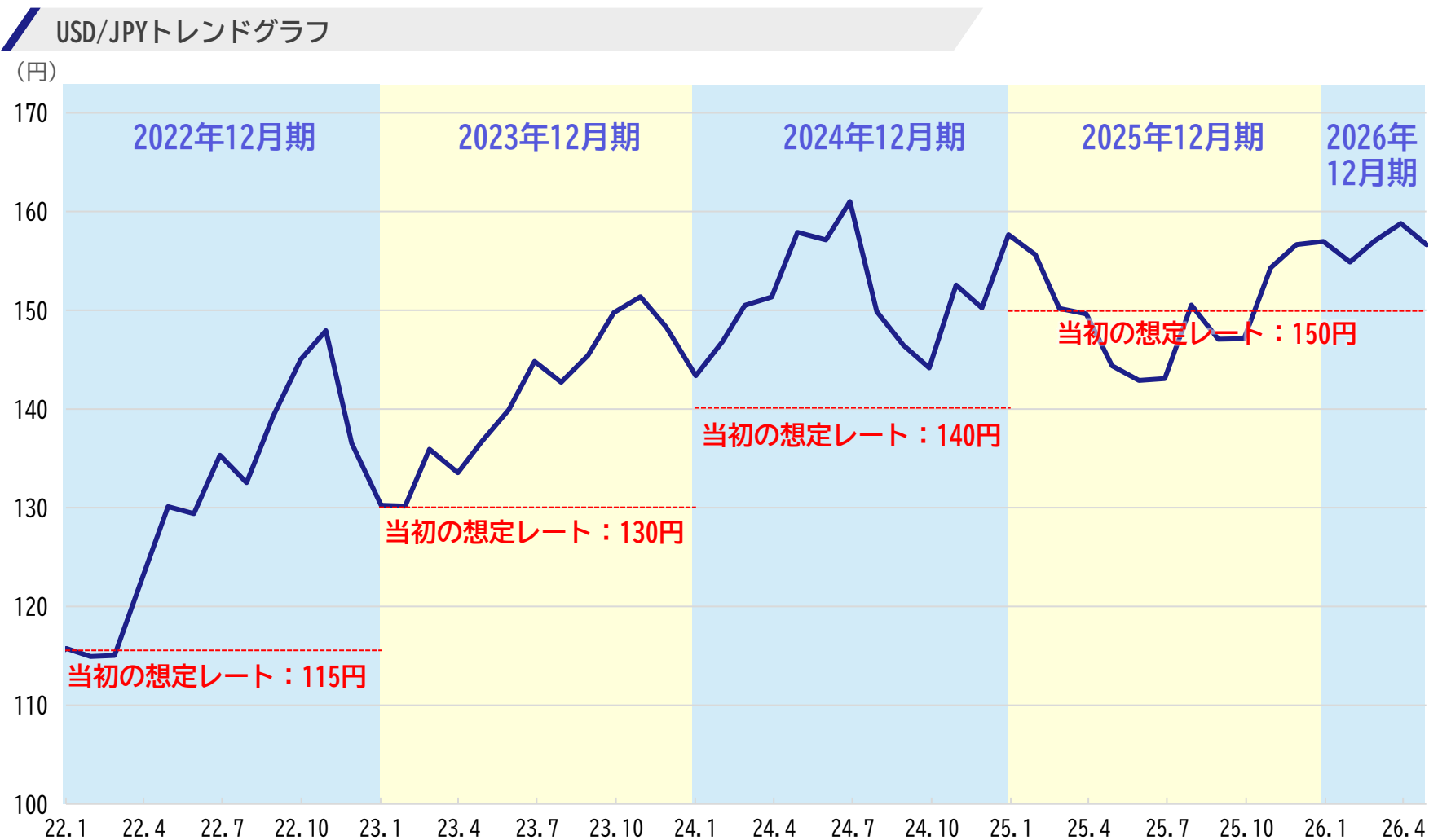
市場動向

- 海底ケーブル向け投資はプロジェクトの増加、ケーブル敷設船の増設により増加傾向続く
- 多芯化に伴い、従来型アイソレータは減少、小型化に加え複合化／モジュール化の動きが進む
- 複合品及びワイドバンド対応製品、モジュールは2027年に移行。多芯化に向けた引き合いが増加。
- マルチコアファイバー対応製品は2027年以降の需要顕在化に向けて開発を加速
- AIサーバー用光トランシーバ向けに光部品の需要は引続き増加、市場拡大が続く見通し

Ⅲ. 参考情報

2026年12月期(1Q)の事業環境

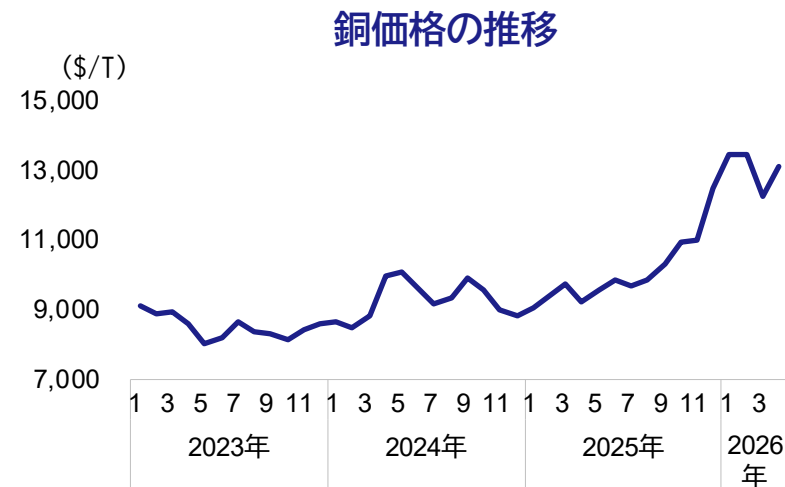
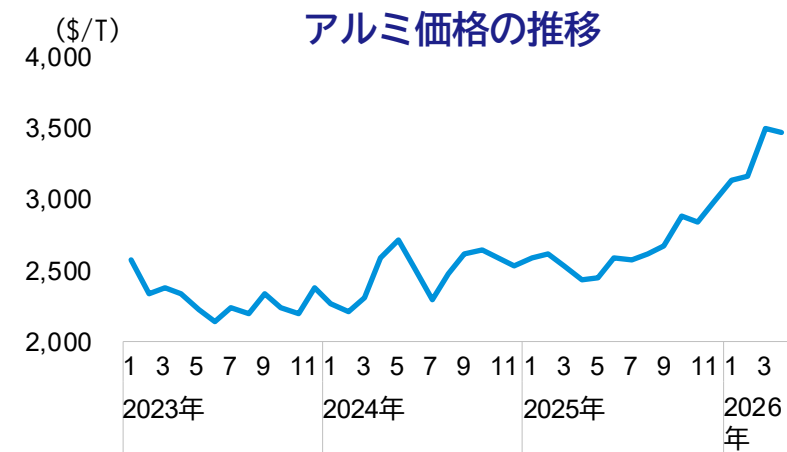
2026年期初の想定レート（150円/USD）に対して円安傾向で推移



外部環境 - 非鉄金属相場の動向

非鉄金属の市場価格は上昇傾向、原則3か月後に価格転嫁

非鉄金属相場（LME）の推移



この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、入手可能な情報をもとに、当社が計
画・予測したものであります。実際の業績などは、様々な条件・要素によ
りこの計画や予想数値とは異なる結果になることがあります。この資料は
その実現を確約したり、保証するものではありません。

湖北工業株式会社 広報・IR担当

E-mail ir@kohokukogyo.co.jp

TEL 0749(85)3211 FAX 0749(85)3217